

# 事業計画書

## 第47年度

(令和8年4月1日から令和9年3月31日まで)

### 1 事業の方針

広島県栽培漁業センターの指定管理者（指定期間:令和8～12年度）として、水産資源の維持増大を図るため、県内の漁業関係者の要望に基づく魚介類の種苗生産事業及び施設維持管理事業を実施するとともに、（公財）広島県漁業振興基金（以下「振興基金」という。）からの委託によるガザミ、カサゴ、オニオコゼ及びキジハタ種苗の増産と、キジハタ種苗、ナマコ種苗の量産化に向けた技術開発を行う。

従来から取り組んでいる安定生産技術の開発に加え、より生残率を高める技術の開発を行うなど、さらに効率的な生産を図りつつ、本会の安定的かつ持続的な経営基盤の構築を目指す。

また、栽培漁業の発展と定着を図るため、他機関との技術交流や情報交換、種苗放流等に関する指導啓発、学生等の見学や体験学習の受け入れなどを行う。

### 2 事業の内容

#### (1) 魚類及び甲殻類の種苗生産事業

水産種苗配布計画に基づき、マダイ、オニオコゼ、ガザミ、ヨシエビ、メバル及びカサゴは振興基金から、アユは広島県内水面漁業協同組合連合会から、配布する。

また、ヒラメ種苗は外部委託によって生産を行い、各地区水産振興協議会へ配布する。

栽培漁業集中放流事業においては、ガザミ（全甲幅 10mm サイズ(C3)）500 千尾、カサゴ（全長 25mm サイズ）74.95 千尾、オニオコゼ（同 30mm サイズ）17.65 千尾及びキジハタ（同 50 mm サイズ）31 千尾を、振興基金からの委託により生産する。

メバル種苗生産事業においては、メバル（全長 25 mmサイズ）253.7 千尾を豊竹水産振興協議会からの委託により生産する。

キジハタ、ナマコについては、量産化技術の確立を目的に、漁協等からの委託と、振興基金の助成を受けて技術開発を行うとともに、種苗生産を行う。

（一社）日本釣用品工業会の LOVE BLUE 事業により、メバル（全長 35mm サイズ）75 千尾、カサゴ（全長 35mm サイズ）20 千尾を生産し、県内に放流する。

#### (2) 三倍体マガキ種苗生産事業

三倍体マガキの種苗生産は、水産種苗配布計画に基づき、広島県漁業協同組合連合会から県内カキ養殖業者に養殖用種苗として配布する。

生産配布目標は、付着コレクター1,500 千枚、一粒（1.5 mm）1,000 万個とする。

生産計画及び配布計画

魚種	生産計画			配布計画	
	大きさ	数量(千尾・千枚)		配布時期	配布先
計画		前年度			
マダイ	平均全長12mm	670.0	1,280.0	6月中旬～6月下旬	振興基金
メバル	平均全長25mm	253.7	253.7	3月下旬	豊竹水産振興協議会
		53.0	50.0		振興基金
	計	306.7	303.7		
	平均全長35mm	75.0	-	4月中旬～4月下旬	日本釣用品工業会
オニオコゼ	平均全長30mm	187.0	204.0	8月中旬～10月上旬	振興基金
		17.7	28.9		振興基金(委託分)
		12.3	38.8		信漁連
	計	217.0	271.7		
ガザミ	全甲幅10mm(3齢)	581.8	611.8	5月下旬～7月中旬	振興基金
		500.0	500.0		振興基金(委託分)
		42.4	46.7		信漁連
計	1,124.2	1,158.5			
ヨシエビ	平均全長12mm	810.0	810.0	8月上旬～8月下旬	振興基金
	平均全長25mm	10.0	31.8	8月下旬～9月上旬	振興基金
三倍体マガキ(養殖用)	付着コレクター 殻高3mm 16個以上/枚	1,500.0	1,500.0	4月上旬～11月下旬	県漁連
	一粒(殻高 1.5mm)	10,000.0	6,000.0	5月上旬～11月上旬	
アユ	平均体重0.5g	1,600.0	1,680.0	1月上旬～2月中旬	内水面漁連
カサゴ	平均全長25mm	92.0	108.0	3月中旬～3月下旬	振興基金
		74.9	74.9		振興基金(委託分)
	計	166.9	182.9		
	平均全長35mm	20.0	-	4月中旬～4月下旬	日本釣用品工業会
キジハタ	平均全長50mm	55.3	56.8	9月下旬～11月下旬	23団体(試験事業)
		31.0	31.0		振興基金(委託分)
	計	86.3	87.8		
(独自事業分)					
ヒラメ	平均全長50mm	366.0	368.0	4月下旬～5月中旬	外部委託生産
ナマコ	平均全長10mm	142.3	100.0	7月上旬～7月下旬	17団体(試験事業)

(3) 種苗生産技術開発及び放流・栽培漁業啓発事業

水産資源の維持増大及び有用魚介類の稚魚を安定的、効率的に生産をするため、生残率の向上を図る技術開発や生産技術の改良、新技術の導入、コストの削減などに取り組む。

また、一般者等に対して栽培漁業の普及・啓発等を行う。

- ① 三倍体マガキ種苗の安定生産に向けた技術開発
- ② キジハタ採卵及び種苗生産量産化に向けた技術開発
- ③ オニオコゼ種苗の安定生産に向けた技術開発
- ④ ナマコ種苗の生産に関する技術開発試験
- ⑤ 見学者に対する栽培漁業学習及び放流行事用の稚魚の提供や、学生の職場体験学習の受け入れ及びホームページでの情報提供

(4) センター管理事業

広島県との広島県栽培漁業センター施設の管理に関する年度別協定により、施設の維持修繕と機械設備の保守点検を実施する。